

東京学

講座コード 2124

東京学入門

主宰講師：小川 和佑(明治大学文学部講師)

10月～12月 木曜日 15:00～16:30

14,000円(全7回)

講座趣旨

20世紀東京もあますところ92日。いまこの東京に多角的にさまざまな視野から照明を与える。まず、「東京学」は流行の江戸学ではないことを冒頭に、それぞれ大阪と対比しながら①東京人の気質、②東京人の人間関係、③東京人の気骨まで人間東京人とその感性を明らかにし、ここで転じて、④東京の食味、⑤東京の女性と流行、⑥東京の名所の移り変わりと風俗、⑦超情報時代(IT革命)と東京を結び、次年度開講の「続東京学」でのこの100年の東京への導入とする。ここでは漱石『三四郎』(1908)に拠り、今世紀初頭の東京と21世紀の東京を多角的に論じて行く。

主題は東京はどのような文明文化を育てたか。その文明文化を創った東京人とはいかなる人びとであったかを論じ、学際分野にまで視野を広げた講座である。

講義概要

- 第1講 「東京学」とは・東京人の気質 10月5日
「とうきょう」は「とうけい」であった。東京の桜 VS 関西の桜
東京人とは、どのような気質か、近代化が創った東京人。
- 第2講 東京人の人間関係 10月19日
どういふ人間関係を築いたか。東京人につきあう法。
三種の東京人それぞれ。
- 第3講 東京人の気骨 11月2日
志操を高く、武士気質の評価を大切にされた東京人。
なぜそうなったかを解明。
- 第4講 東京の食味・食文化に見る東京の感性 11月16日
みつまめ、みぞれ、資生堂のアイスクリーム、下町の名品小倉アイスなど、東京の味とその流行。
- 第5講 東京の女性と流行 11月30日
各時代の流行は女性が創った。女子大生と女子学生、女子大生ファッション、東西女子学生比較など。
大阪と対比してどうか。
- 第6講 東京の名所の移り変わり 12月7日
名所の移り変わり、「見物」の精神、明治期の銀座・上野から大正時の銀座・浅草への二極分化へ。さらに現代の渋谷、原宿、ハイエリアと移り変わるその好奇心が革新へ。
- 第7講 超情報時代と東京 12月14日
どうなる、どうする東京を考える東京の企業と企業マンたち。
そのためには100年の東京を再発見して学ぼう。

講師紹介



小川 和佑(おがわ かずすけ)

文芸評論家・明治大学文学部兼任講師。日本文芸家協会会員。1930(昭和5)年東京目黒生まれ。明治大学(旧制)文芸科卒。主著に『伊東静雄』(講談社)『三島由紀夫少年詩』(冬樹社)『女原道造詩集・全注釈』(明治書院)『桜の文学史』(朝日新聞社)『桜と日本人』(新潮社)『日本の桜・歴史の桜』(NHK出版)『東京学』(新潮社)共編著『日本文芸鑑賞事典』全20巻(ぎょうせい)その他など。

参考図書紹介

東京人の心得を伝授します!

江戸っ子は温かい、しかし東京人は冷たいー。江戸を知っても、下町を知っても、東京を知ったことにはならない。粹で、変わり身早く、寛容な首都東京。文学、食、女性、街…様々な角度から東京を見る。今、5万人に読まれている大ベストセラー。



「東京学」

小川 和佑 著
新潮文庫 定価438円+税

参考図書紹介

東京ー桜愛の物語

NHKラジオ深夜便の好評に応えて、書き下ろされた桜へのメッセージ。桜会、花宴、花見の歴史や東京の桜、染井吉野の出現と流行、「源氏物語」「万葉集」での桜は“女性”を説明し、華やかな八重桜と文学を語る。



「日本の桜・歴史の桜」

小川 和佑 著
NHKライブラリー 定価1020円+税